



「好奇心は生きる力」

静岡県立観音山少年自然の家 所長 寺田 容子

今年度も新型コロナウイルス感染状況を見据えながらの運営となりました。日々変わる難しい状況の中、多くの園や小・中学校団体の皆様にご利用いただきました。心より感謝申し上げます。また、本所の主催事業において予定通り実施することができたイベントでは、毎回定員を上回るたくさんの応募をいただき、家族や初めて出会う子ども達同士、人と人との心の距離を縮められる野外活動の強みが十分発揮されていたことを実感しました。そして距離を保つことを余儀なくされ触れ合う機会が減る今こそ、野外教育施設の重要性が一層増していると感じています。

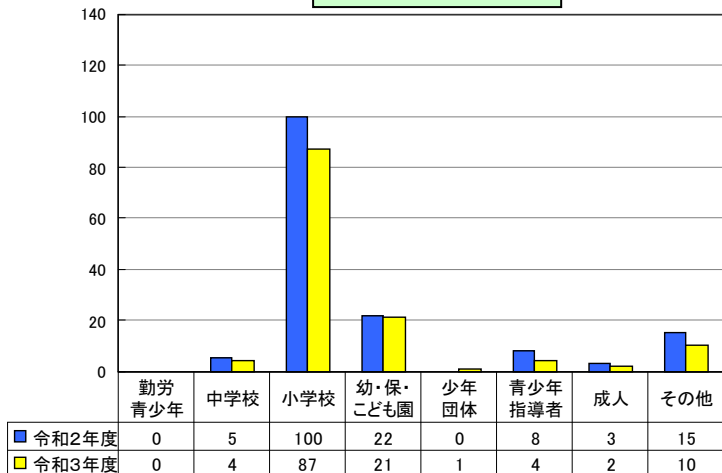
起伏の激しい山道や磁石がくっつく蛇紋岩、ヌルヌルした水底や真っ暗闇に包まれた夜の森等々、観音山の素朴な自然は、子ども達の五感を刺激し、興味や好奇心をくすぐる絶好の環境です。また、草木染めや門松作り等、自然物を使ったイベントでの体験は、自然素材を工夫して使う楽しさや、イメージが形になっていく達成感を感じながら、大人も子どもも夢中になって取り組む様子が見られました。こうした非日常的な直接体験は参加者にとって新鮮さと、次の展開への期待感とともに主体的な活動をもたらします。また達成に向けては、不便な自然環境で生まれるさまざまな困難や危険と向き合わなければなりません。そういう場面がおのずと知恵を絞ることや、他者と助け合う必要性を生み、そこからまた新たな気づきや次への動機付けに発展していくと考えます。苦心の末ゴールにたどり着いた時や、試行錯誤しながら作品が完成した時の達成感や満足感が、新たな好奇心や活力のエネルギー源になっていく。そんな体験をこの観音山で多くの方々に味わっていただきたいと思います。

観音山少年自然の家はもうすぐ 50 周年を迎えます。これからも「自然」「友達」「自分」を主役に“ワクワク・ドキドキ”の自然体験ができる施設として一層お役に立てるよう、所員一同魅力あるプログラム開発やエリア整備に力を合わせて励んでまいります。ぜひ多くの皆様の御利用を心からお待ちしております。

令和3年度の利用状況

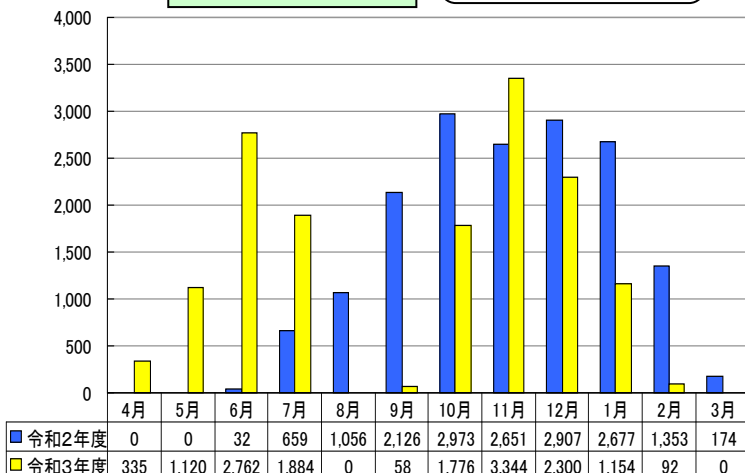
静岡県立観音山少年自然の家

利用団体者数

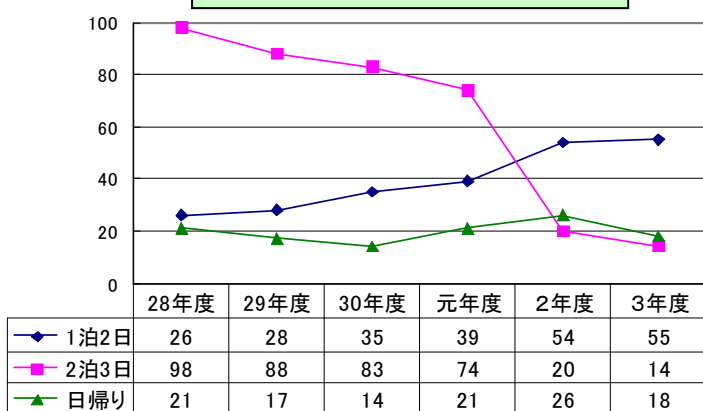


月別延利用者数

2年度 16,608人
3年度 14,825人



小学校の宿泊日数



令和2年度に引き続き、令和3年度もコロナ禍のため、受入できない期間があったり、キャンセルや日程の縮小があったりして、利用団体・利用人数共に大幅に減ってしまいました。

観音山少年自然の家では、コロナ対策をより万全に行い、安心して利用していただけるように最善を尽くしています。たっぷり自然体験を行い、子どもたちをたくましく成長させるために**2泊3日での活動プログラム**をお勧めします。

学校等の活動の様子

困難克服型プログラム



山頂登山

沢登り

観音山トライアスロン、セレクトハイキングなど

集団協力型プログラム



キャンプファイヤー

OLビンゴ

キャンドルのつどい、コマ地図ラリーなど

共通のプログラム

冒険ラリー、ナイトウォークラリーなど

○「困難克服型プログラム」「集団協力型プログラム」

観音山少年自然の家では、活動プログラムを「たくさん歩いて、粘り強く困難を克服するプログラム」(困難克服型)と「集団(グループ)で協力して、話し合いながら課題を解決するプログラム」(集団協力型)に分類しています。これは各入所団体のめあてや子どもたちの実態に沿ったプログラムを提案することを目的としています。今後のプログラム決定の際の参考にしてください。